

2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 1 月 7 日作成)

小委員会名	企画戦略小委員会	主 査 名：小浦久子 就任年月：2018 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：小浦久子 主 査 名：小浦久子
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2021 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>都市計画委員会所属の各小委員会およびワーキンググループにおける研究活動成果を体系化し、出版物刊行、講習会・シンポジウム開催などを通して専門実務家や地域社会への公開と普及の促進を積極的に推進することを目的とする。上記目的達成のため、具体的な出版物や講習会などの成果として結実させることを重点目標とする。</p> <p>また、都市計画本委員会のホームページにより、各小委員会およびワーキンググループのホームページへのリンクや出版・シンポジウム等の情報発信により、活動成果の公開と地域社会へ普及することを目的とする。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無	
	主査：小浦久子（神戸芸術大学） 幹事：阿部俊彦（早稲田大学）、伊藤香織（東京理科大学）、栗山尚子（神戸大学）、 趙世晨（九州大学）村上正浩（工学院大学） 委員：市古太郎（首都大学東京）、小篠隆生（北海道大学）	
設置 WG (WG 名：目的)	(1) 研究協議会企画運営 WG（主査：小浦久子） 2018 年 9 月に仙台で開催される大会・研究協議会開催へ向けての論点整理と意見の集約を行う。 (2) キャンパス・地域再生 WG（主査：小篠隆生） キャンパスを 1 つの手がかりに、地域のサステナビリティを向上させるために必要な都市デザインを進展させるべく、大学の空間性を都市・地域再生の中で取り扱う計画・デザイン理念と手法を明らかにする。 (3) アジア都市グローバル人材育成 WG（主査：趙世晨） “Think globally, act locally” を念頭に、アジア産業界からの要望も鑑みて、ローカルな実践に関与しながらも、グローバルな視点を持つ人材を育成するために必要な教育プログラム及び要素技術の体系化を検討し、学会の「場」を活用した国際教育ネットワークの形成を目指す。	
2018 年度予算	225,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	4 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 情報交流シンポジウム（第 22 回）『新キャンパスで実践されたデザイン～マスタープランと実際、そしてその先へ～』（キャンパス・地域再生 WG） <div style="text-align: right;">参加者数 51 名</div> （資料名：情報交流シンポジウム（第 22 回）『新キャンパスで実践されたデザイン～マスタープランと実際、そしてその先へ～』） 2. 「Sustainable Design Camp - Development of Gakuen-dori Ave, West-ward of Fukuoka」 <div style="text-align: right;">参加者数約 60 名</div> 3. Symposium on Internationalization of Asian Urban Planning Education <div style="text-align: right;">参加者数約 50 名（予定）</div>

<p>大会研究集会</p>	<p>1. 日本建築学会大会研究協議会の開催 (研究協議会企画運営 WG) 「復興まちづくりと空間デザイン技術」</p> <p style="text-align: right;">参加者：約 120 人</p>
<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 都市計画部門研究協議会「復興まちづくりと空間デザイン技術」を企画し、運営した。</p> <p>2. 新規研究活動テーマの検討、立案、実施（小委員会の再編）</p> <p>3. 出版、講習会、シンポジウム等の企画、立案、実施へ向けた支援 ・キャンパス・地域再生 WG 等の出版支援 など</p> <p>4. 各小委員会ホームページの管理</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	